



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4602S		
科目名	ゼミナールⅡ		
担当教員	福田 充		
対象学年	3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	水 4		
講義室	1210	単位区分	必
授業形態	演習・ゼミナール	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E[学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP2-B[自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢] 自己の存在意義を知り、自らを高め続けようと努力することができる。 DP3-G[状況把握力・判断力] 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP4-I[理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP6-K[表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-C[他者理解・倫理観・公共心] 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP7-L[協働力・牽引力] 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M[省察力] 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 B1 自己啓発－10% C1 倫理的思考・社会認識－10% E1 学識と専門技能－20% G1 状況把握－10% I1 理解・分析と読解－10% K1 ライティング・コミュニケーション－20% L1 チームワーク－10% M1 統合的・応用的学修－10%		
教員の実務経験	2005年から内閣府内閣官房の「日本のテロ対策の在り方について委員会」などの委員として日本のテロ対策やミサイルなど国民保護体制の構築に関する実務に関与してきました。また2007年から埼玉県「危機・防災懇話会」委員として自治体行政における災害対策やテロ対策の構築のための実務に関わりました。その他にも政府や官庁、自治体の災害対策、テロ対策、国民保護などに関する委員会委員を歴任して、日本の危機管理体制の構築に関わってきました。現在も総務省消防庁ではテロ対策など国民保護についての懇話会で、厚生労働省では新型インフルエンザ委のパンデミックについての有識者会議や委員会で、神奈川県国民保護情報ネットワークでは研究者メンバーとして、行政や自治体、ならびに企業など多様なステークホルダ		

	ーと連携しながら日本の危機管理体制の構築に関わっています。こうした実務経験をもとに、講義を行います。（第1回～第15回）
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期～4 定着期
科目概要・キーワード	■科目概要 危機管理学に関する卒業論文を制作するために実施するゼミナールの演習において、3年次におけるこのゼミナールⅡでは、受講生各自が自らの個人研究テーマを確立し、その研究テーマにおける問題意識を固め、研究対象をどのように研究するかその具体的な研究方法を検討します。このゼミナールでは、危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する社会調査に基づく実証研究について指導します。受講生各自が、ひとりひとりで自分自身の研究テーマを確立して個人研究を実施します。またその実証研究のために必要な社会調査の手法、統計データ分析の手法についても学びます。 授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード： リスクコミュニケーション、危機管理学、社会調査、統計分析
授業の趣旨	■副題 卒業論文の制作のために必要な個人研究テーマの確立と研究対象・研究方法の設定 ■授業の目的 卒業論文の制作のために、まずこのゼミナールⅡでは個人研究テーマについて確立し、問題意識を熟成させることで研究対象とその研究方法を設定し、検証すべき仮説を構築することができるようになることを目的とします。 ■授業のポイント 卒業論文の制作のための個人研究計画を確立するために、受講生全員で発表し、議論を繰り返すことにより、よりよい研究計画を確立します。
総合到達目標	卒業論文を執筆するために必要な個人研究テーマを決定し、その研究のための研究対象と研究方法を確立し、先行研究を収集することで独自性のある研究手法と検証すべき仮説を確立することを到達目標とする。 ・危機管理に関する専門分野の理論知と実践知を獲得し利用することができる。 ・危機管理における自己の社会的責任を知り、自らを高め続ける努力することができる。 ・危機管理に関して自らの置かれた状況、所属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 ・文章表現、数値データを適切に扱い、情報収集、分析と加工を行い、課題解決につなげることができる。 ・文章と口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に伝達することができる。 ・人間行動に関する考察に取り組み、社会的存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 ・集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 ・知識と経験を関連付け学修成果を活用できる状態に高め、新しく複雑な状況に応用して課題解決につなげることができる。
成績評価方法	■ゼミナール・演習内で発表する個人研究計画発表レジュメ（80%）：適用ルーブリック B1・C1・E1・G1・I1・K1・L1・M1 第1回目：個人研究計画案発表（10%） 第2回目：個人研究計画書レジュメ 経過報告第1回（10%） 第3回目：個人研究計画書レジュメ 経過報告第2回（10%） 第4回目：個人研究計画書レジュメ 発表（50%） （評価の観点） 卒業論文における個人研究計画レジュメを作成し、各自が発表を行います。その研究テーマと研究内容、研究計画の立て方の厳密さ、的確さと、プレゼンテーションの手法のレベルを評価します。 （フィードバックの方法） 各自の研究発表後に、授業内で評価・議論を行います。 ■社会調査統計分析のためのSPSS講義とデータ分析演習（20%）：適用ルーブリック B1・C1・E1・G1・I1・K1・L1・M1 卒業論文の個人研究で行う社会調査のデータ分析の手法を身につけるための演習を実施します。 （評価の観点） 社会調査のデータ分析の手法の理解度と分析能力の到達度について評価します。

	(フィードバックの方法) 演習中に適宜指導をしながら繰り返し説明を行います。	
履修条件	とくにありません。ゼミナールⅠの単位を修得していることが望ましいです。	
履修上の注意点	危機管理学におけるリスクコミュニケーションについて社会調査による実証研究を卒業論文において実施する意欲のあるものの履修を望みます。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究的アプローチ ②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーション研究について、またそれを社会調査に基づく実証研究的アプローチによって実施することの意義を説明できるようになる。ゼミナールでは担当教員のこれまでの実務経験を活かしながら研究指導を行います。こうした社会での実務と研究活動がどのように関連してくるかを説明します。担当教員の实務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1) ③予習(120分) 教科書の『リスクコミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』(北樹出版)の序章を読む。 ④復習(120分) 自分自身の卒業論文、卒業研究の研究テーマについて資料を収集し、検討する。
	2	①授業テーマ 危機管理学における研究テーマの設定と問題意識 ②授業概要 危機管理学において求められる研究テーマの立て方と、問題意識のあり方について講義し、どのように個人研究を始めて、どのような作業を進めればよいかを理解できるようになる。担当教員の实務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1) ③予習(120分) 教科書の『リスクコミュニケーションとメディア』の第1章を読む。問題意識の立て方について考える。 ④復習(120分) 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、研究テーマと問題意識についてのレジюмеを作成する。
	3	①授業テーマ 第1回発表①「卒業論文の研究テーマと問題意識」 ②授業概要 自分自身の卒業論文における「研究テーマと問題意識」について、ひとりずつ発表レジюмеにもとづいてプレゼンテーションし、受講生全員でディスカッションができるようになる。担当教員の实務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1) ③予習(120分) 教科書の『リスクコミュニケーションとメディア』の第2章を読む。問題意識の立て方と先行研究について考える。 ④復習(120分) 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、先行研究の収集と整理を行う。
	4	①授業テーマ 実証研究のアプローチと社会調査の手法 ②授業概要 危機管理学における実証研究的アプローチの意義と、社会調査の手法について学び、理解できるようになる。社会調査としてのアンケート調査、内容分析、ヒアリング・インタビュー調査、実験、フィールドワークの手法について学び、その①調査対象者の決定、②標本抽出法の確立、③調査実施方法の選定について学びます。担当教員の实務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1) ③予習(120分) 教科書の『リスクコミュニケーションとメディア』の第3章を読む。社会調査の計画と調査法について考える。 ④復習(120分)

	自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、社会調査の実施方法について検討する。
5	①授業テーマ 社会調査の統計データ分析の手法 ②授業概要 実際の社会調査データを使用して、社会調査データの分析手法について学び、統計分析ソフトSPSSと、表計算ソフトExcelを用いてデータ分析を実践し、身につけることができる。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1) ③予習(120分) 統計データ分析のためのSPSSとExcelの利用方法について勉強する。 ④復習(120分) 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、研究対象についてのプレゼンテーション用パワーポイントを作成する。
6	①授業テーマ 先行研究の収集と理解 ②授業概要 卒業論文における個人研究のために必要な先行研究の収集と理解、整理について説明します。先行研究としての研究書、学会誌論文、大学紀要論文、専門誌、学術誌、報告書などの研究資料の収集の方法と、読解、整理の仕方を理解できるようになる。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1) ③予習(120分) 自分自身の個人研究のための先行研究としての研究所や学術論文を図書館で収集する。 ④復習(120分) 収集した先行研究を読解し、研究計画発表レジュメとして整理する。
7	①授業テーマ 危機管理学における研究対象の設定 ②授業概要 危機管理学において、研究計画における研究対象をどのように定めるか、研究対象としての問題群と具体的事例としてのトピックの扱い方が理解できるようになる。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1) ③予習(120分) 自分自身の個人研究のための先行研究としての研究所や学術論文を図書館で収集する。 ④復習(120分) 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、研究対象についてのプレゼンテーション用レジュメを作成する。
8	①授業テーマ 危機管理学における研究方法の設定と仮説の構築 ②授業概要 危機管理学において、研究計画における研究方法をどのように定めるか、実証研究を行うにあたってどのように仮説を構築すべきかが理解できる。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1) ③予習(120分) 教科書の『リスクコミュニケーションとメディア』の第3章と4章を読み、研究方法と仮説の立て方について考える。 ④復習(120分) 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、研究方法と仮説についてのプレゼンテーション用レジュメを作成する。
9	①授業テーマ 個人研究レジュメ発表 第1回発表 ②授業概要 自分自身の卒業論文のための個人研究計画レジュメを発表し、発表後に受講生全員でディスカッションをできるようになる。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1) ③予習(120分) 自分自身の個人研究のための先行研究としての研究所や学術論文を図書館で収集する。

	る。 ④復習（120分） 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、個人研究計画レジュメを作成する。
10	①授業テーマ 個人研究レジュメ発表 第2回発表 ②授業概要 自分自身の卒業論文のための個人研究計画レジュメを発表し、発表後に受講生全員でディスカッションをできるようになる。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1） ③予習（120分） 自分自身の個人研究のための先行研究としての研究所や学術論文を図書館で収集する。 ④復習（120分） 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、個人研究計画レジュメを作成する。
11	①授業テーマ 個人研究レジュメ発表 第3回発表 ②授業概要 自分自身の卒業論文のための個人研究計画レジュメを発表し、発表後に受講生全員でディスカッションをできるようになる。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1） ③予習（120分） 自分自身の個人研究のための先行研究としての研究所や学術論文を図書館で収集する。 ④復習（120分） 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、個人研究計画レジュメを作成する。
12	①授業テーマ 個人研究レジュメ発表 第4回発表 ②授業概要 自分自身の卒業論文のための個人研究計画レジュメを発表し、発表後に受講生全員でディスカッションをできるようになる。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1） ③予習（120分） 自分自身の個人研究のための先行研究としての研究所や学術論文を図書館で収集する。 ④復習（120分） 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、個人研究計画レジュメを作成する。
13	①授業テーマ 個人研究レジュメ発表 第5回発表 ②授業概要 自分自身の卒業論文のための個人研究計画レジュメを発表し、発表後に受講生全員でディスカッションをできるようになる。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1） ③予習（120分） 自分自身の個人研究のための先行研究としての研究所や学術論文を図書館で収集する。 ④復習（120分） 自分自身の卒業論文・卒業研究のための個人研究計画について考察し、個人研究計画レジュメを作成する。
14	①授業テーマ 個人研究計画の構築における課題・問題点の抽出と改善 ②授業概要 各自が発表した個人研究計画レジュメについて、それぞれの課題・問題点について振り返り、その改善点を理解することができるようになる。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1）

	③予習（120分） 各自が作成した個人研究計画レジュメの修正作業を実施する。 ④復習（120分） 各自が作成した個人研究計画レジュメの修正作業を実施する。
15	①授業テーマ 演習のまとめと総括 ②授業概要 危機管理学における研究のあり方について、とくに法学的・政治学的・社会学的・心理学的なアプローチによる実証研究における研究計画と概要についてまとめ、総括します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。（B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1） ③予習（120分） 各自が作成した個人研究計画レジュメの修正作業を実施する。 ④復習（120分） 各自が作成した個人研究計画レジュメの修正作業を実施する。
関連科目	■演習系科目 「ゼミナールⅠ（RMGT 4601S）」・「ゼミナールⅢ（RMGT 4603S）」・「ゼミナールⅣ（RMGT 4604S）」 ■講義科目 「危機管理学概論Ⅰ（RMGT 1301S）」、「リスクコミュニケーション論（RMGT 1304S）」
教科書	福田充編（2012）『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』（北樹出版）。 福田充（2010）『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』（北樹出版）。
参考書・参考URL	福田充（2022）『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』（平凡社新書）。 福田充（2022）『政治と暴力～安倍晋三銃撃事件とテロリズム』（PHP新書）。 福田充（2010）『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』（慶應義塾大学出版会）。 福田充（2009）『メディアとテロリズム』（新潮新書）。その他は講義中に適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 火曜日・金曜日昼休み時間。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%：パブリックセキュリティ25%：グローバルセキュリティ25%：情報セキュリティ25% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学70%：法学30%

